

記入例

第56回（平成30年度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書
 「移植栽培部門」生産グループの部 うるち米 または もち米 部

推薦者 〇〇地区米麦改良協会 会長理事 〇〇 〇夫 印

調書の内容は誤りのないことを確認した

振興局 農業改良普及センター 所長 〇〇 〇平 印

検査（出荷）実績を証明する 北海道米麦改良協会所属

農産物検査員 JA〇〇農産物検査員 〇〇 〇雄 印

（ふりがな） まるまるちょうクリーンまいせいさんくみあい

1 対象者 生産グループの名称 〇〇町クリーン米生産組合

（ふりがな） ほっかいどうまるまるしまるまるまちいちばんにじゅうさんごう

代表者氏名・住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号 〇山 〇次

2 経営状況 耕地面積 42.6 ha （注） 田・畑などの合計面積

年次 項目	平成28年	平成29年	平成30年	3カ年の平均
水稻作付面積	36.4ha (40.2)	38.4ha (44.2)	34.4ha (36.2)	36.4ha (40.2)

（構成する生産者の合計面積を記入）

注）加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積。（ ）内はこれらを含む作付面積。

3 構成生産者の状況

	平成28年	平成29年	平成30年
戸数	6	7	7
従事者数	10	11	11

4 耕種概要

（1）作付品種と栽培法（構成する生産者の合計値を記入）

年次 項目		平成28年	平成29年	平成30年	
		きさら397	5.0ha	5.0ha	3.0ha
作付面積	品種名	ななつぼし	18.5ha	20.5ha	19.5ha
		ゆめぴりか	7.5ha	7.5ha	8.5ha
		大地の星	5.4ha	5.4ha	3.4ha
			ha	ha	ha
			ha	ha	ha
	合計	36.4ha	38.4ha	34.4ha	
うち 直播面積	品種名	大地の星	5.4ha	5.4ha	3.4ha

「大地の星」など低蛋白米生産を目的としない品種や直播栽培等も記入する。しかし(2)以下の技術内容および5の産米出荷成績からは除く。

注）加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積。

(2) 堆厩肥等の有機物施用と透排水性改善

項目		年次			
		平成28年	平成29年	平成30年	
堆厩肥施用量kg/10a		1,000kg	1,000kg	1,000kg	
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	10%	%	%
	当年産	搬出	%	100%	100%
		秋鋤込	90%	%	%
土壌改良材kg/10a	資材名		ケイカル	ケイカル	ケイカル
	施用量		100kg	120kg	120kg
透排水性改善			心土破碎	心土破碎	心土破碎
(備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施					

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、水稲作付面積に対する割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

堆厩肥施用量・土壌改良材施用量については当該グループの代表事例を記入。

(3) 移植時期と栽植密度 (移植時期・栽植密度については当該グループの代表事例を記入)

項目		年次		
		平成28年	平成29年	平成30年
育苗形式名		成苗ポット	成苗ポット	成苗ポット
移植時期		5月20日～5月30日	5月20日～5月30日	5月18日～5月28日
栽植密度	畦幅 × 株間	33cm × 13cm	33cm × 13cm	33cm × 13cm
	m ² 当たり株数	23.3株/m ²	23.3株/m ²	23.3株/m ²
(備考)				

(4) 施肥

項目		年次								
		平成28年			平成29年			平成30年		
		N	P	K	N	P	K	N	P	K
施肥 (kg/10a)	全層	5.6	5.6	5.6	5.6	6.0	6.0	6.0	6.8	6.0
	表層									
	側条	2.4	2.4	2.4	2.5	4.0	3.0	2.3	3.7	3.8
追肥	kg/10a									
	期日									

施肥量については当該グループの代表事例を記入

(5) 収穫乾燥方式 (構成生産者の取組比率を記入)

- ・ 連続乾燥 (年～年) 【 %】
- ・ 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 (27年～30年) 【 90%】
- ・ 遠赤外線乾燥 (27年～30年) 【 10 %】
- ・ 除湿乾燥 (年～年) 【 %】

5. 産米出荷成績（構成する生産者の合計値を記入）

項目	年次	平成28年	平成29年	平成30年	3カ年の合計
総出荷数量 ①		2,500俵	2,700俵	2,300俵	7,500俵
一等米数量 ②		2,500俵	2,700俵	2,300俵	7,500俵
一等米比率 ②/①		100%	100%	100%	100%
高品質米出荷数量	精米タンパク質含有率6.8%以下仕分対象品種出荷数量	520俵	600俵	300俵	1,420俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下	500俵	600俵	300俵	1,400俵
	精米タンパク質含有率6.8%以下出荷率	96%	100%	100%	99%
	(酒造好適米 特上)				
	(酒造好適米 特等)				
	合計	500俵	600俵	300俵	1,400俵

- 注) ・①・②は「大地の星」、直播栽培など低蛋白米出荷目的でないもの、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量、一等米比率。
 ・俵数は60kgに換算のこと。
 ・高品質米出荷数量は、仕分基準に基づく実績数量とする。
 ・「おぼろづき」については精米タンパク質含有率7.9%以下を高品質米出荷数量とする。

6. クリーン農業等の取組状況（構成する生産者の合計値を記入）

	平成28年	平成29年	平成30年	3カ年の合計
YES!clean米取組面積 ①	7.0ha	15.0ha	20.0ha	42.0ha
有機JAS・特裁米・環境保全型農業等取組面積 ②	1.5ha	3.0ha	4.0ha	8.5ha

- 注) ②は、有機JAS実績面積・特別栽培農産物実績面積・環境保全型農業直接支援対策実績面積の合計とし、各対象制度の取組実績面積は重複しないものとする。

上記①②の面積については加工用米・新規需要米・政府備蓄米面積を含めない

7. クリーン農業を除く病虫害防除の実施状況

<p>病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応方防除に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いもち病に関しては、ブラスタムの活用およびほ場の見回りを実施。 ・カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

8. 経営の観点（低コスト生産に向けた取組状況など）に係る取組状況

(別記)

9. 品質向上についての技術的特徴及び目的達成のための努力等（具体的に記載して下さい。）

（枠の範囲にこだわらず、次ページにまたがっても良い）

(1) 土質・土性、透排水性とその改善等

- ①毎年、全生産者が全ほ場の心土破碎を実施し、透排水性の維持に努め・・・
- ②毎年、全生産者が各ほ場に暗渠を施工するとともに、計画的に心土破碎を実施し・・・

(2) 水管理（畦補修の割合、幼穂形成期の確認、前歴及び冷害危険期の水深は何cmかなど）

- ①栽培技術情報を共有し、融雪促進や初期生育向上に取組、生育前半に窒素を吸収させ蛋白を低下させる技術を実践し・・・
- ②毎年、全体の2割程度のほ場を畦補修や圃場毎に幼穂形成期の確認、冷害危険期に水深15～20cm確保するなど・・・

(3) 栽培技術（育苗、耕鋤、施肥、水管理、収穫、乾燥調製など）についての特徴

- ①施肥管理は、〇〇肥料と△△肥料を全層施肥し・・・
- ②土壌診断による施肥量の設定、側条施肥による初期生育の促進を図るなど・・・
- ③適期刈取の判定確認後に収穫作業の実施、二段乾燥による良質米の調製・出荷・・・
- ④初期生育の促進に向けた取組・管理（共同育苗等）

10. 特色ある栽培の取組（具体的に記載して下さい。）

- ①予察情報を活用した防除実施による農薬代の低下に取組・・・
- ②機械の共同購入・共同利用に取組・・・
- ③基幹品種である「ななつぼし」を中心に、熟期の異なる「きらら397」や「ゆめぴりか」をあわせて作付けし・・・
- ④コンタミ防止マニュアルを独自に作成し、取り組んでいる。

1 1. 生産グループとしての共同で行っている特徴的・先駆的な取組みの状況等

- (1) 農薬使用基準を独自で定め、クリーン農業に力を入れている
- (2) 水管理、ほ場管理にあたって共同巡回で効率的に行い・・・

1 2. 添付書類

- (1) 平成30年産米栽培履歴（構成全生産者分）

以上

上記内容について、第56回（平成30年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道米麦改良協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、審査概要報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

平成30年〇〇月 〇日

生産者グループ名称 〇〇町クリーン米生産組合

代表者住所 北海道〇〇市〇〇町1番23号

代表者氏名 〇山 〇次 _____ 印

(別記)

経営の観点の記入例

1. コスト低減の取り組み

(1) 省資材

- ・ J Aおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施して、適正施肥・肥料コスト低減に努めている。
- ・ 有機質肥料を使用し化学肥料由来の窒素を10aあたり5kg以下に抑え、農薬の成分回数を6成分以内にすなど高度な栽培技術を行って生産している。

(2) 共同利用その他

- ・ 機械・倉庫設備の償却資産の延長を図り、機械修理等については自ら実施し必要最小限の修理コストでの機械管理を行っている。
- ・ 低コスト生産を目的として、乾燥調製施設、コンバイン、ビーグル等の共同利用が各地区で行われている。乾燥調製においては、4施設あり、11戸1法人が共同利用している。

2. 適期作業、適期防除の取組

- ・ J Aや普及センターから随時発信される営農技術情報を活用して、適期作業に努めている。
- ・ 病虫害防除では発生対応型防除を心がけ、適期防除を実践し、環境等の配慮から追加防除をしないよう努力している。

3. 有利販売等

- ・ JA施設で均質化された特別栽培米「ゆめぴりか」は、実需より高い評価を受けている。特別栽培米「ゆめぴりか」は、一般米より〇割程度高い単価で取引されていることから、農家の所得向上や生産意欲を高めている。
- ・ 特別栽培に取組み始め、全量契約栽培であり有利販売につながっている。